

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(国語)

□問題・設問構成

見た目の4大問構成は変わらず。ただし、配点のバランスに変化。

大問1が小説、大問2が説明文、大問3に古典、大問4に資料読み取りからの作文。昨年と変わらない構成となりました。ただし、漢字の問題が減り、大問4に配点が振られたため、配点のバランスが変化しました。

□昨年度との難易度比較

難易度は上昇。徐々に得点が取りにくいテストに。

漢字の問題が減ったことに加え、採用された題材の難しさと「生徒との会話」などという形式の変化があり、難易度は昨年より上昇。さらに、問題形式の変更による“受験生の混乱”で平均点が下がり、昨年の平均点28.8点よりもさらに平均点が下がるでしょう。

『広島県の国語は簡単である』という定説は、完全に覆されたと言っていいでしょう。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

絶対押さえるのは漢字と歴史的仮名遣い

平成29年度入試に向けて、今すぐに始めてもらいたい対策は「漢字」と「歴史的仮名遣い」の2つです。

配点こそ小さくなったものの、広島県入試の漢字と歴史的仮名遣いは正直言って簡単です。ですから、ここで得点を落とすことはそのまま合格を遠ざける結果になりかねません。

簡単な漢字・仮名遣いで構いません。まずは3月、きっちり確認です。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(社会)

□問題・設問構成

4大問構成は変わらず。資料を読み取るタイプの問題が増加。

大問1が地理の問題、大問2が歴史の問題、大問3に公民の問題、大問4に総合問題の4題構成と、こちらも昨年とほとんど変わらない問題構成になりました。グラフや資料が多く登場し、これを読み解いて解答する“パッと見では社会らしくない”記述問題が多く存在していました。

□昨年度との難易度比較

問題は昨年とほぼ同等の難易度。

昨年に引き続き、記述式の問題が多く存在しますから難易度は変わらないと踏んでいいでしょう。ただし、形式自体に大きな変更がないため、しっかり対策ができている受験生には面食らうことはないでしょうから、平均点は自体は多少の上昇が見込まれます。昨年の25.7点から1~2点のプラスと見るのが妥当かと思います。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

簡単な記述問題は今すぐ書けるような練習を

最近、社会の問題は「単純な用語暗記」では得点が取れないようになっていきます。もちろん、用語の暗記はすべての基本ですので、引き続いてやっておかなければなりません。それ以上に大切なのは「単純な記述問題」を得点していくこと。

「記述問題」とクローズアップすると、難しいように感じるかもしれませんが、実は本当に難しいのは資料を読み取りながら説明していく問題です。記述問題には、ただ覚えれば解けるタイプの問題もあるのです。ですから、そのような問題を拾いながら練習することをオススメします。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(数学)

□問題・設問構成

大問構成から大幅に変更。計算問題が減って記述問題が増える。

大問 1 が計算、大問 2・3 に小問集合が入りました。大問 4 が選択問題と説明問題が入る「昔の大問 2」のような形式になり、さらに初めて「グラフを作図」する問題が導入されました。大問 5 が図形の活用系の問題が入り、大問 6 が関数の活用系問題、大問 7 に関数のグラフ応用問題、大問 8 に図形の証明問題が出題されました。大幅な変更で面食らうとともに、計算問題が 4 問となり、計算で「稼ぐ」と決めていた受験生にはかなり苦しい問題になったかと思います。

□昨年度との難易度比較

難易度は昨年よりも上がり、平均点は下がるか。

形式変更によって、いわゆる「確実に解答する問題」が減り、大問 4 以降の問題の難易度がかなり高くなりました。また、形式が変わったという心理的な作用も働き、平均点は昨年の 30.1 点を大幅に下回ることになりそうです。

□平成 29 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

それでも基礎から積み上げるべき！

計算問題が減ったり、記述・活用系の問題が増えたりと、大きな形式変更があった数学ですが、それでも基本的な部分から積み上げなければなりません。問題が難しくなればなるほど、基本的な問題をいかに落とさずに応用問題を拾えるかがカギを握ります。今のうちに、「基本問題に絶対に足をすくわれないこと」をテーマに、計算や小問をこなしていく必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(理科)

□問題・設問構成

大問が3つから4つに。総合問題がなくなる。

理科は大胆な構成変更がありました。大問1に化学分野(化学変化と温度)、大問2が生物分野(細胞に関する問題)、大問3には物理分野(ばねと水圧)、大問4に地学分野(天気と太陽)が入ってきました。内容自体は昨年と変わらず記述型の問題が多いのも特徴です。

□昨年度との難易度比較

昨年よりは解きやすい問題に。平均点は上昇の可能性。

今年の特徴である「見た目の形式が変更になった」という心理で、びっくりした受験生は多かったと思いますが、内容自体は昨年よりも解きやすいので、平均点は2~3点上昇すると考えられます。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

教科書の実験はチェックしておくこと

問題を眺めていただくとわかりますが、4つの大問はいずれも「実験・観察」が提示されて解くタイプの問題です。今回採用されている全部で6つの実験・観察はすべて、教科書に載っているものかほとんど同じものです。今まで学んだ実験や観察については、すべてチェックしノートにまとめるなり教科書にチェックを入れるなりして、目を通しておく必要があります。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(英語)

□問題・設問構成

構成は変わらず4大問。文章を書く問題が増える。

大問1にリスニング、大問2が対話文読解、大問3に長文読解、大問4に対話文完成の4題構成と、こちらは昨年と変わらない問題構成になりました。大問2には資料が3つあったり、大問3に新聞記事が採用されたりと、目先を変えるような問題が並んで、少し問題に工夫が見られます。

□昨年度との難易度比較

難易度は上昇も、平均点はさほど変わらないか。

長めの英文をしっかりと書かせる問題が多くあり、またたくさんの資料が受験生を混乱させる可能性があるため、難易度は昨年よりもややアップした印象があります。しかしながら、長い文章には部分点がもらえるため、その分平均点自体は昨年と変わらない可能性があります。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

単語・熟語の整理を徹底させる

広島県の英語は、リスニングを除く3つの大問がすべて長文問題です。ですから、読むにしても書くにしても、語い力がなければ前に進みません。もちろん、長文が読めたとしても文章の意味がなければ解けませんし、文法がメチャクチャでは長い文章は書けません。しかし、それ以前にやっておかなければならないのは単語の量を増やすこと。少なくとも今まで教科書に載っている単語はすべてチェックし、できるだけ覚える努力をしましょう。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(総評)

□平成 28 年度の全体的雑感

- ・傾向が大きく変わった教科があり、受験生はメンタル面の強さも試される。
- ・記述量が多く、体力を削られて全体的に「タフ」な入試となる。
- ・1日目の3教科のインパクトに比べると、2日目の2教科は変更が小さめ

□予想平均点 (50 点満点。5 教科合計 250 点満点)

国語	26 点～27 点	(昨年 28.8 点)
社会	24 点～25 点	(昨年 25.7 点)
数学	26 点～27 点	(昨年 30.1 点)
理科	25 点～26 点	(昨年 23.0 点)
英語	24 点～25 点	(昨年 24.0 点)
5 教科合計	125 点～130 点	(昨年 131.6 点)

昨年よりも若干下がると思われる。

□平成 29 年度入試に向けての注目ポイント

・表現力を問う課題が各教科で増加

国語の 200 字作文や、英語の英作文などが典型的な例です。「この状況であなたならどのように考えるか／どのような発言をするか」というタイプの問題が定着しました。また、理科と社会ではいわゆる記述式の説明文の傾向が「資料を読み取って」答えるタイプが増加しました。

・日常生活との接点を意識した問題の増加

数学の大問 5・6 が典型例です。□ーブを使って直角を作ったり、車の制動距離と空走距離の問題が出題されたりと、いわゆる数学の教科書の中で繰り広げられる数学的な常識ではなく、それを身近な例として問題にする傾向です。

・教科横断型の問題傾向

社会の問題に資料を読み取って解答すること（国語や数学との横断）や英語の長文に資料がある（数学との横断）ことは、大きく見ると教科横断型の問題傾向になっていると言えます。

結果、広島県の公立入試が大学入試改革を強烈に意識したものであることが明確になった入試と言えます。

□中学 2 年生、中学 1 年生へ

基本知識は今から積み上げる

上に書いた通り、広島県の入試は応用重視に寄っています。

ですが、応用問題をしっかり訓練するのは 3 年生になってから。それよりも今は、訓練が始まるまでの基本知識を積み上げる期間に当てましょう。

もう、高校入試は始まっています。

合格するかどうかは、今日この瞬間にかかっているかもしれません。

強い気持ちを持って、毎日の勉強に臨んでください。